

Kwansei Archives



Gakuin Lectures

第62回

関西学院史研究会

モダニズム文学とプロレタリア文学の谷間 ——坂本遼と足立巻一の存在証明——

大正末から昭和初期にかけての文学にとっての激動の時代、関西学院の片隅に目をやれば、そこには英文学科に坂本遼、中学部に足立巻一という青年と少年がいた。それから1世紀経た今日、二人は、関学出身の文学者としては、さほどスポットが当てられていない。だが、坂本が卒業の年（1927）に自費出版した詩集『たんぽぽ』には、彼のその後の人生を決定づけるものが埋め込まれており、それにやや遅れて新聞・雑誌への投書を始めた足立は、同じ世代の投書家仲間との交流を経て、詩や小説の創作活動を自身の生きる糧としていく。本講演では、それらが二人の個別の問題にとどまらず、文学が潜在的にもつ力を示唆していくことを語ってみたい。

講師

大橋毅彦氏 おおはし たけひこ

関西学院大学名誉教授。1955年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業、同大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)。著書に『室生犀星への／からの地平』（若草書房、2000年）、『昭和文学の上海体験』（勉誠出版、2017年）、『D・L・プロッホをめぐる旅——亡命ユダヤ人美術家と戦争の時代』（春陽堂書店、2021年）、『神戸文芸文化の航路——画と文から辿る港街のひろがりー』（琥珀書房、2024年）などがある。

日時

2026.11.10 | 火 | 13:30 - 15:00

場所

関西学院大学図書館ホール（西宮上ヶ原キャンパス）

無料・申込不要・一般参加歓迎

主催：関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022